

## 『三千年の大地の目覚めに冷静に対応しましょう』

令和6年1月吉日

石川県弓道連盟会長 水橋 美喜夫

県連会員の皆様、明けましておめでとうございます。

西暦2024年、令和六年「甲辰（きのえ・たつ）」の新年を迎えました。その元日の夕刻に県内では過去最大と言われる大地震が発生しました。その後はとてもめでたいという気分になっていません。辰のももとの語源は「振」だと聞いて皮肉なことだと思いました。度重なる余震も続いて、とりわけ能登半島地域を中心として未曾有の震災が起こっています。連日の報道をみるのが辛いです。一瞬で犠牲になられた方、家屋の倒壊で生死不明な方など、多くの皆さまにお悔みを申し上げます。半島という地理的なハンディを抱えて、インフラや情報の切断や最先端の重機・機材も使えない事態が起きました。私の自宅では書棚のほとんどの書類等が散乱しました。親戚等では電気・水道の停止で日常生活がストップしています。私自身、命が縮まる思いで数日間は何をする気力もなく、日々新たな被災の情報が届くにつれ、胸が張り裂ける思いにさいなまれています。昼夜を通して頑張っている支援対応の皆さまのご尽力に感謝し、一日も早い復旧復興を心から願います。



弓道関係については、幸いにも会員ご自身の身体的な被害はとくにお聞きしていません。しかし、ご自宅の家屋損壊、地割れ・地すべりや道路の寸断は数え切れず発生しています。また、弓道場関係では、地盤部分の傾き、壁のクラックや安土・床の隆起があります。さらには道場が避難所にあてられてしばらくは利用を見合わせる事態もあります。

この文の草稿の最中にも大きな揺れが発生しています。揺れが収まっても、自分の身体がまだ微妙に揺れているような、自分が自分でないような感覚が続いています。

県外からのお見舞いの連絡も多数届いています。本当にありがたく、感謝しかありません。「おかげさまで大丈夫です」と応えながらも、実際には各地の被災画像がフラッシュバックします。無力感、不安感、そして無常感で傷ついた心の被災は表現のしようもありません。まして、今後いつ再び揺れがあるかも知れない中、自分自身の災害備えがいかに不十分であったか、事前の計画や準備に無頓着であったかを思い知らされています。

専門家の話によれば、能登半島の特に西側の沿岸部が4mも隆起拡大しており、これは約三千年に一度の逆断層のズレによる結果だと言っていました。

今後皆さまにも相談したいのですが、今般の被災の全容がいまだに判明してない中、弓道連盟としてどのように対応すべきか悩んでいます。一般的な義援金等はすでに関係団体で対応していますが、我々は弓道関係に限定して何をなすべきか、例えば各地の物理的な被害に応じて金銭的な応援をするためにお見舞金を募集するかどうか、各種行事の見合わせも適宜進んでいます。来年度の会員登録費については減免すべきかどうかなど、課題が山積んでいます。微力ながらできる範囲でできることからやるしかありません。

有難いことに、このたび福島県弓道連盟様からいち早く多額のお見舞金の提供がありま

した。2011年3月の東日本大震災はまだ記憶に新しく、その折には我々県連も少額ながらお見舞金を差し上げたところです。災害の規模や内容は当地とかなり異なりますが、その時のお礼にという温かい話があり、感謝の心で有難くご厚意を受けることといたしました。我々としても県連単位で今後何らかの救済対応を検討中です。皆さまのお知恵を拝借しつつ、ご相談を進めようと思います。

まだまだ余震も続きます。もしかしたら別の天災もありえます。お互いに災害に対する備えを再考しつつ、健康管理に留意して、弓が引ける環境の皆さまには天地を祓う気持ちを込めて感謝の射を目指していただきたいと願います。